

商業サインのデザインに関する基礎評価

京都大学工学部	正 員	佐佐木 綱
京都大学工学部	正 員	川崎 雅史
京都大学工学部	正 員	○飯田 克弘
京都大学工学部	学生員	有倉 陽司

1. 研究の目的

本研究は、ある特定のストリートを対象とし、情報受信者の認知やイメージといった心理量を基準に、商業サインのデザイン特性を抽出し、それらを建築や都市との関係性から評価することによって、街のメディアからみたストリートイメージを把握することを目的とする。

2. ストリートイメージを考慮したサインの心理評価実験

先の目的を遂行するため、京都市内の商業サイン集積地区である先斗町通り（伝統的繁華街）を対象に、図1に示す心理評価実験を行った。

3. ストリートイメージが具現化する

サインのデザイン特性

サインの評価は、個々のサインから受ける視覚的印象の度合（印象度）と、個々のサインの先斗町通りに対する適合性（適合度）の2点から行った。上記の心理評価実験において印象度は3段階、適合度は5段階の尺度を用いて調査した。

この2つの評価結果を整理するために、適合度の平均値1.0、非常に印象に残ると指摘された頻度（印象度の指摘頻度）が被験者数の30%であることをひとつの境とし、適合度が高く印象度が低いサインをテキスト型、適合度が高く印象度が高いサインをテキストコア型、適合度が低く印象度が高いサインをアクセント型と呼ぶことにする。この分類によって得られた、先斗町通りにおけるサインのデザイン特性を以下に述べる。

(1) 材質感の均整（テキスト型）

背後建築物の素材の中心に木材を用い、のれんやちようちんなどのアクセサリをを組み合わせることにより下地の中で構成される日本的雰囲気にも毛筆体のサインの文字がうまく組み込まれ全体として均整がとれている。（写真1）

(2) 日本文字の均整（テキスト型）

書道を表現するようなモノトーンの色彩の組合せが、日本文字を浮かびあがら

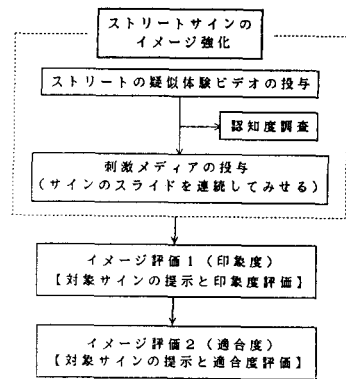


図 1

せ、それが持つ独特の秩序感を高めている。（写真2）

(3) 玄関口の均整（テキストコア型）

木材を中心とした日本建築の開口に、材質、デザイン面で違和感のない板看板、のれん、独立看板をバランスよく配置し、まとまりのある情報性豊かな景観要素として成立している。（写真3）

(4) 現代建築の幾何学的均整（テキストコア型）

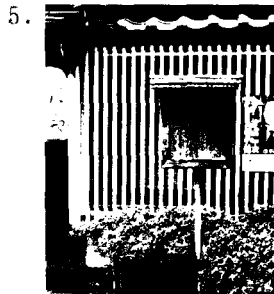
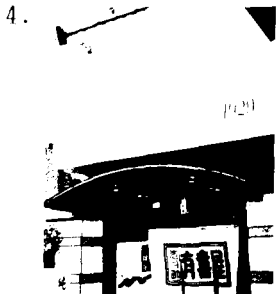
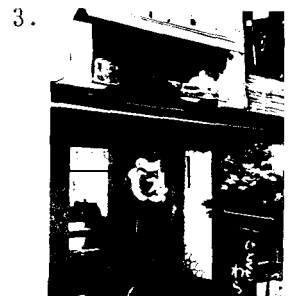
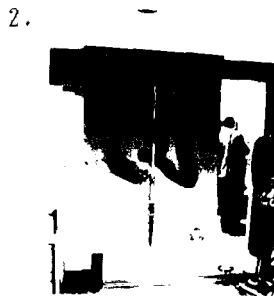
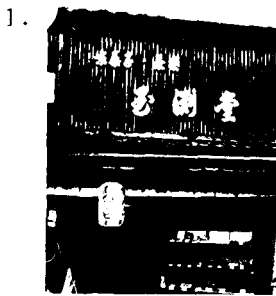
現代建築の課題である開口のおさまり、各部位の配置が幾何学的に計算されており、その比率と英文字の均整がストリートの伝統的空間の秩序に呼応している。（写真4）

(5) 広告オブジェの均整（テキストコア型）

背後の部位に格子状の木材を用いて日本的雰囲気を感じ出し、そこに伝統性を感じさせるパーツとしてお触れ書きを使用することで、情報のインパクトの強化がなされている。（写真5）

(6) 街情報の均整（アクセント型）

歩行者に、街の地理情報や文化情報を多角的に配置することによって、わかりやすさの視点からストリートイメージの均整を図る効果がある。（写真6）



4. おわりに

今後の課題として以下の諸点を考えていきたいと思っている。

(1) 連続的なストリートイメージ（物語性）創造への支援分析

(2) 交通標識、駅、博物館、交番などの情報性・公共性に富んだ施設景観要素も考慮した情報サイン計画への発展性

(3) 観光地区における順路計画への発展性